参考資料2

公園など様々な場における市民等の取り組み事例

平成24年7月31日

１．公園における市民等の取り組み事例
２．震災祈念施設における市民等の取り組み事例
３．森（海岸林）づくりにおける市民等の取り組み事例
４．湖沼の自然環境保全における市民等の取り組み事例

岩手県　陸前高田市 RIKUZENTAKATA CITY

①国営昭和記念公園 こもれびの里

◇「こもれびの里」の概要

- 目的：昭和30年代の武蔵野の農村風景にあった心象風景の再生
- テーマ：「昭和・武蔵野・農業」
- 主要施設：農家、田圃、畑、雑木林　等
- 面積：2.4ha
- 平成19年供用開始。

こもれびの里のイメージ図
（図出典：国営昭和記念公園ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）

◇背景

・国営公園初めての試みとして、こもれびの里開園以降の市民の運営への参加も見据え、計画づくりの段階から市民参加による公園づくりを実施。

◇協働の枠組み

- **ボランティア団体「こもれびの里クラブ」**と**公園事業者である行政（国土交通省 昭和記念公園事務所）とが協働（パートナーシップ）**により、計画段階からワークショップ等を行い、田畑や施設等の整備内容を検討。
- 計画段階以降も、整備、管理・運営段階を通して、「こもれびの里クラブ」が継続的に、公園管理者との協働で、取り組みを行っている。（平成19年時点で、会への参加者数は109名）

1. 公園における市民等の取り組み事例

◇「こもれびの里クラブ」の取り組みの例

●**農作業** （ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体と公園管理者との協働）
- 土づくりから作物の収穫

●**樹林地づくり** （ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体と公園管理者との協働）
- 雑木林、有用樹、花修景 等

●**施設づくり** （ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体と公園管理者との協働）
- 納屋などの建設

●**年中行事や行事食づくり** （ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体と公園管理者との協働）
- 注連縄づくり、まゆだまづくりなど

●**勉強会や見学会の企画及び開催**
（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体と公園管理者との協働）

●**来園者向け体験ｲﾍﾞﾝﾄ企画運営**
（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体と公園管理者との協働）

●**ワークショップ** （ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体と行政・公園管理者との協働）
- 「こもれびの里」の整備・運営等についての話し合い

農作業

年中行事

ワークショップ

（写真出典（3点とも）：
国営昭和記念公園ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）

◇協働の効果

- **国営公園というフィールドにおいて、参加者が有する技能を活かした社会貢献を実現。**
- **継続的な取り組みにより、人的・物的情報やノウハウを豊富に蓄積。**

（以上、国営昭和記念公園こもれびの里ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを参考）

②愛・地球博記念公園（モリコロパーク）

◇「愛・地球博記念公園」の概要

- 平成17年に開催された愛・地球博(愛知万博)の長久手会場跡地につくられた公園。
- 主要施設: 愛・地球博記念館、地球市民交流センター サツキとメイの家、こどもの広場　等
- 面積: 194.2ha
- 平成18年第一期開園。

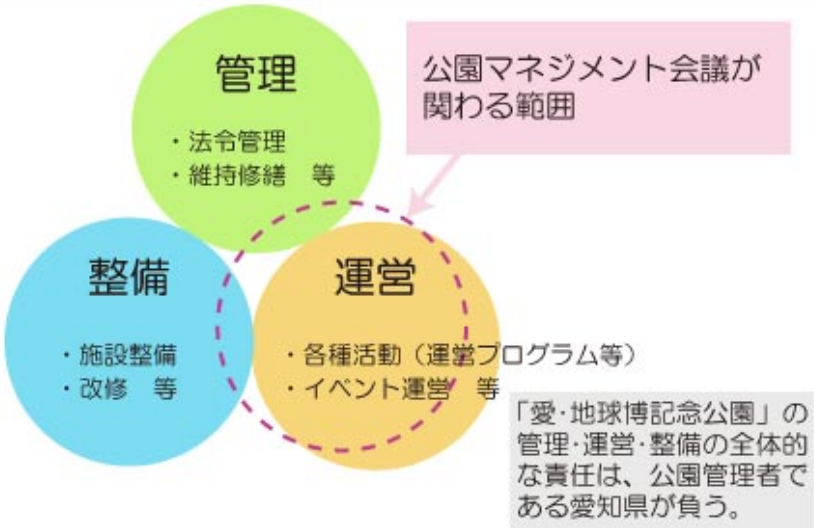
こどもの広場

◇背景

- 「自然の叡智」をテーマに開催された愛・地球博の理念や成果である環境や交流、市民協働などを発展させていくことを基本方針として整備。

◇協働の枠組み

- **NPO、ボランティア団体、企業、大学、研究機関等と行政・指定管理者が、公園の「運営」について議・実践する場として「公園マネジメント会議」を設**
  「管理」「整備」にかかわる範囲は、県及び指定管理者が主な役割を担う。
- 園内活動の実行組織となる「分科会」を数多く設置。



「公園マネジメント会議」の役割範囲 模式図

（写真・図出典：愛知県ホームページ）

1. 公園における市民等の取り組み事例

◇取り組みの例

●愛・地球博記念イベント企画・運営分科会

・春まつりと秋まつりを多くの団体が協働で企画・運営

●地球市民交流センターオープニング分科会

※現在は活動を終了（公園管理者とNPO等との協働）

・NPO等が、平成22年オープンした「地球市民交流センター」の開館オープニングイベントの企画・運営を実施

●池における水質・底質の調査分科会 及び モリコロパークの土壌環境調査分科会

（公園管理者とNPO、大学との協働）

・NPOと大学が協働で公園内にあるいくつかの池の水質や底質、土壌環境の調査を実施。

→ 調査の結果は、環境教育の資料として活用。

地球市民交流センターの
オープニング式典

（写真出典：地球市民交流センターホームページ）

調査の様子

（写真出典：愛知県ホームページ）

◇協働の効果

・**県民と行政のパートナーシップにより、公園利用者の満足度向上などを目的に、利用者の目線で公園の管理・運営を行うことを実践。**

（以上、愛知県ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ（愛・地球博記念公園 公園マネジメント会議）を参考）

◎阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

◇人と防災未来センターの概要

・目的 :- 「減災社会の実現」・「いのちの大切さ」・「共に生きることの素晴らしさ」の発信
　　- 世界的な防災研究の拠点として、災害全般に関する有効な対策の発信
・運営者:財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構
・主な施設:展示室、資料室、研究室　等
・施設規模: 8573.49㎡

◇背景

・阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に生かすことを通じ災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献することをミッションとして整備。

◇協働の枠組み

・施設内にある様々な展示ゾーンにおいて、**市民が運営ボランティアとして参画** 。

人と防災未来センターの外観

（写真出典:阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター　ホームページ）

2. 震災祈念施設における市民等の取り組み事例

◇取り組みの例

●語り部ボランティア （運営者と市民ボランティアとの協働）

・阪神・淡路大震災の被災者が、震災の体験を来館者に語る。（運営者は、語る内容について細かく指示をしていない）

・運営者は、語り部ボランティア一人一人の語りの記録を残すために、インタビューも行っている。許可が得られた記録内容をホームページで公開。

語り部ボランティアによる
来館者との対話の様子

（写真出典：阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターホームページ）

●展示解説ボランティア （運営者と市民ボランティアとの協働）

・ボランティアは、実験やゲームを通して、防災・減災に関する実践的な知識を学習する防災・減災ワークショップ等も実施。

●語学ボランティア （運営者と市民ボランティアとの協働）

●手話ボランティア （運営者と市民ボランティアとの協働）

語り部ボランティアにお声がけをされる天皇皇后両陛下

（写真出典：宮内庁 ホームページ）

◇協働の効果

・**被災者自らが施設への来館者と対話をすることで、展示物だけでは伝えることができない震災の体験談を、伝達することが可能。**

（以上、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターホームページを参考）

②出羽庄内公益の森づくり事業

◇事業の概要

・平成14年より始まった、山形県の庄内砂丘における歴史的な遺産でもある海岸林（クロマツの砂防林）の保全事業。

◇事業の背景（課題）

・松くい虫による被害、クロマツ林の荒廃、ニセアカシアの異常繁殖等への対策による海岸林の保全。
・地域の共有財産として、地域の力で守り育てようという意識の高まりを踏まえた、多様な主体の協働により取り組みとして発足。

庄内砂丘の海岸林

（写真出典：「庄内を守る砂丘林」山形県庄内総合支庁森林整備課 発行 ）

◇協働の枠組み

・行政機関、小学校、大学、森林ボランティア団体、NPO、林業関係団体等の**多様な主体が、「出羽庄内公益の森づくりを考える会」を構成**し、海岸林保全に係る各種の取り組みを実施。

3. 森（海岸林）づくりにおける市民等の取り組み事例

◇取り組みの例

●「出羽庄内公益の森づくりを考える会」を開催

（行政と大学、森林ボランティア団体等との協働）

・行政が定期的に会を開催し、大学、森林ボランティア団体等が、海岸林のあり方を話し合う機会を提供

●住民参加の森づくり運動（行政と森林ボランティア団体、小学校等との協働）

・行政と森林ボランティア団体が協働で、下刈り・枝打ち等のボランティア活動に対して作業指導を 実施。

・行政や森林ボランティア団体が、小学校等に出向き、海岸林についての講義や、学習林等を活用した野外での森林整備体験学習を実施。

●情報発信・普及啓発（NPOと大学（専門家）等との協働）

・NPOと大学（専門家）等が協働で、シンポジウム等を開催し、海岸林の普及・啓発活動を実施。

ボランティア活動の作業指導

森林整備体験学習

（写真出典（2点とも）：「庄内を守る砂丘林」山形県庄内総合支庁森林整備課 ）

◇協働の効果

海岸林の保全とともに、地域の共有財産・歴史的な遺産としての価値や重要性等の普及・啓発を展開。

（以上、山形県庄内総合支庁、NPO法人庄内海岸のクロマツをたたえる会ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを参考）

4. 湖沼の自然環境保全における市民等の取り組み事例

①アサザプロジェクト（「新しい公共」の事例）

◇事業の概要

・平成7年に、「NPO法人アサザ基金」が立ち上げた茨城県霞ヶ浦の再生に係る市民型公共事業。

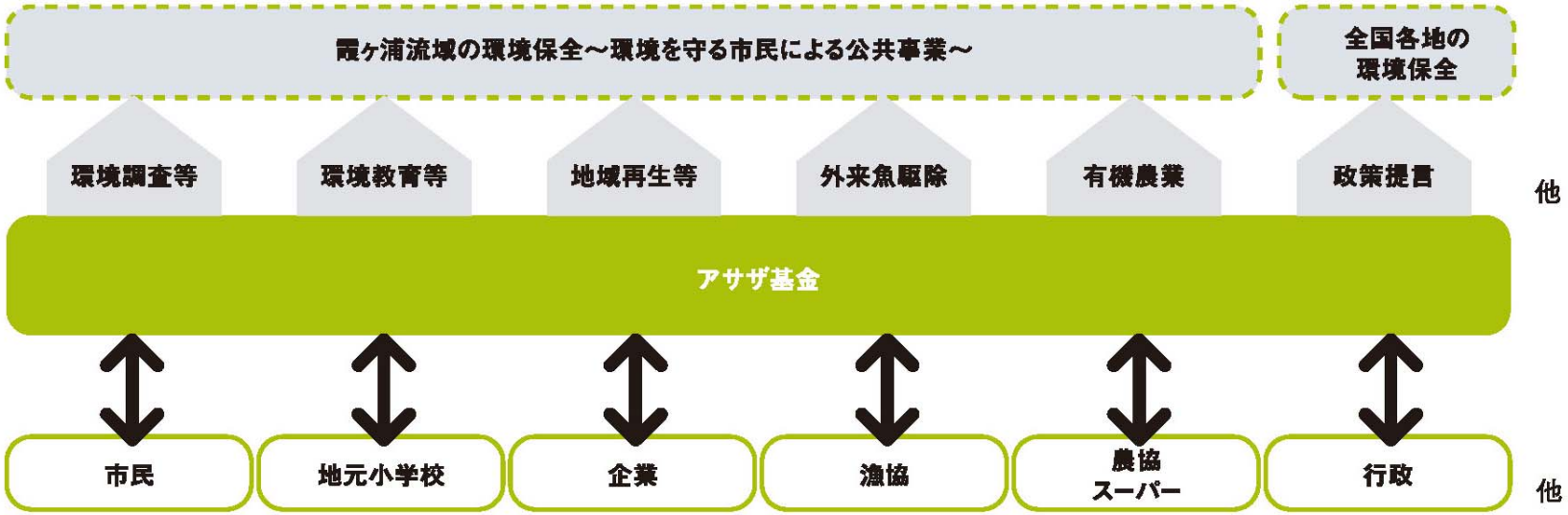
再生したアサザ
（写真出典：経済産業省ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ掲載資料）

◇事業の背景（課題）

・霞ヶ浦の水質汚濁による湖流域の環境悪化と漁業の衰退の改善。

◇協働の枠組み

・NPO、企業、地域住民、農林水産業、地場産業、教育機関、行政等の**多様な主体が、「NPO法人アサザ基金」が企画・提案する事業に参画**。



協働の仕組みの模式図 （図出典：経済産業省ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ掲載資料）

4. 湖沼の自然環境保全における市民等の取り組み事例

◇取り組みの例

●アサザの里親制度（NPO法人アサザ基金と小学校、市民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ、研究者との協働）

・小学校や市民ボランティアが、里親としてアサザの株を栽培し、植え付けを実施。

・植え付け場所等は、研究者が、調査研究に基づき自然再生に適した場所を選定している。

→水質悪化が見られた湖の環境が、様々な生き物が生息する環境へと改善された。

●水源地となる水田の再生（NPO法人アサザ基金と企業との協働）

・企業が、霞ヶ浦の水源地となる休耕田の再生を実施。

→水源地環境の再生を実現。

→再生した田圃で収穫した米を利用した酒づくり等、地域ブランド商品づくりへと展開。

→地域の小学校等が、再生した田圃を環境学習の場として活用。

里親制度によるアサザの植付け

（写真出典：経済産業省ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ掲載資料（NPO法人ｱｻｻﾞ基金資料））

◇協働の効果

NPO法人アサザ基金と多様な主体との協働による様々な取り組みが、相互に連鎖して、地域活性化へと発展。

（以上、経済産業省ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ掲載資料、NPO法人アサザ基金ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを参考）